様式６

幼児教育長期派遣通信　２学期号

発行　令和７年１２月２４日

東広島市立下黒瀬小学校　仁井　貴士（派遣園：広島大学附属幼稚園　東広島園舎）

１　２学期の研修内容

（1）園内研修→年長担任として子供理解と環境を大切にした保育実践
園内外環境整備、園行事参加、保育カンファレンス
ESD に係わる研究（研究会）など

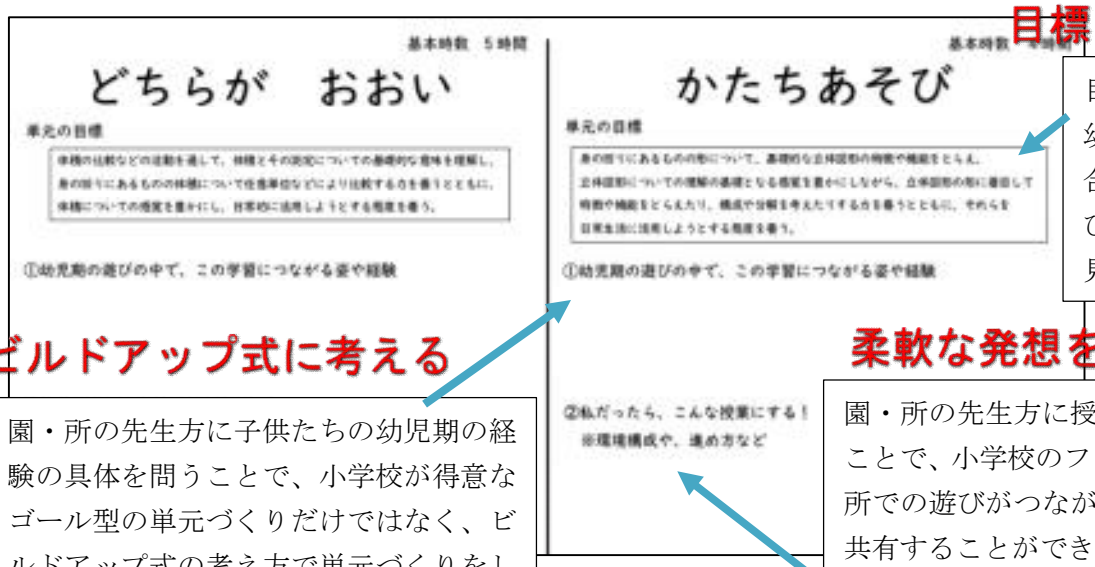
（2）園外研修→園外保育引率（動物園、附属三原小学校・幼稚園）
下黒瀬小学校区の幼保小連携強化の取組、研修報告会
研修会講師　幼保小連携担当者研修　架け橋期のカリキュラム会議
生活科・総合的な学習の時間　全国大会運営

２　研修を通して

幼児教育長期派遣研修２年目ということもあり、日常の保育に加えて園の行事などにも参加させていただくのが２回目となっています。繰り返し参加させていただくことで、１回目では見えなかったことも２回目では見えてくることもあります。この「繰り返し」ということが大きなポイントだと感じる日々です。幼児期の子供たちは繰り返し遊びます。繰り返し色々なことを試す中で多くの気付きや発見も生まれてきます。小学校では、カリキュラムを実施していく中で、つい時間に追われてしまい、こなしていくことに意識が向く中で「繰り返し」ということをしなくなっている現状も感じます。

だからこそ、幼児期に大切にしている「繰り返し」などのポイントを小学校の授業に落とし込んでいくには、園・所の先生方と一緒に単元を作っていくことで大きなヒントをもらえるのではないかと思い、取り組みました。

○園・所の先生方と一緒に単元を考えていくことで、幼児期の学びと生活が連続していく！



単元づくりの際に使用した単元づくりシート

目標を共有しておく

目標を共有しながら、幼児期の姿と照らし合わせてもらうと、遊びの中で重なる姿が見えてくる。

ビルドアップ式に考える

園・所の先生方に子供たちの幼児期の経験の具体を問うことで、小学校が得意なゴール型の単元づくりだけではなく、ビルドアップ式の考え方で単元づくりをしていくことができる。

柔軟な発想を取り入れる

園・所の先生方に授業のイメージを問うことで、小学校のフレームをとって、園・所での遊びがつながる授業のアイデアを共有することができる。そうすることで、今まで気付かなかった授業展開についても考えることができる。

様式６

園・所での姿を可視化する

単元につながるであろう幼児期の遊びの姿の具体を示し、保育者の援助や環境構成を明確にすることで、小学校の教師のかかわり方や環境構成につなげていく。

つながりが見えやすいフォーマット

子供にかかわる誰もが見やすくイメージしやすいものにしていくため、園・所での子供の姿や思いを起点に、つながりが整理しやすいフォーマットにしていく。

協働し作成した単元イメージマップ

３　まとめ

園・所の先生方と一緒に作った算数科「かたちあそび」の単元を所属校で授業公開しました。公開授業に至るまでに広島大学附属幼稚園（東広島園舎）の子供の姿に加えて、所属校の近くにある４つの園・所の先生方と２回のオンラインミーティングを通して、それぞれの園・所での子供たちの姿を共有しながら単元を完成させていきました。

一度、小学校というフレームを外して単元を考えると、アイデアも多様になり、今まで考えなかった展開についても議論することができました。また、幼児期の子供の姿を起点にビルドアップで単元を構想していくと、子供の学びや生活の連続性も見えてきました。こうやって一緒に単元をつくることを通して、得られることは大きいと思います。形式だけの対話だけではなく、子供の姿を真ん中に置いて、大人が語り合うことで、必ず子供の育ちにつながっていくのだと、これまでの協働した単元づくりのプロセスを通して実感しました。

オンライン単元づくりの様子

〈乳幼児教育支援センターより〉

園・所の先生と小学校の先生の異なる専門性が協働することで、お互いが新たな視点に気付き、保育・授業の改善に繋ぐことができますね。幼保小の接続を円滑に推進していくポイントは、互いの保育・教育に敬意を払うとともに、どうやったら目標が達成できるのか、前向きに知恵を絞ることです。子供の成長を一緒に支えるチームとして協働体制を強めていきましょう。